

出雲市中小企業景況調査報告書

(平成25年7月～9月期)

1. 調査期間 平成25年10月1日(火)～平成25年10月15日(火)

2. 調査対象企業 出雲市内事業所180社 回答数 163社 回答率 90.6%

業種	出雲商工会議所管内		平田商工会議所管内		出雲商工会管内		斐川町商工会管内		合計	
	対象企業数	回答企業数	対象企業数	回答企業数	対象企業数	回答企業数	対象企業数	回答企業数	対象企業数	回答企業数
建設業	13	13	4	4	4	4	4	2	25	23
製造業	18	18	7	6	6	6	5	4	36	34
卸売業	9	9	2	2	3	3	3	3	17	17
小売業	23	21	9	9	8	7	9	6	49	43
サービス業	27	25	8	6	9	9	9	6	53	46
合計	90	86	30	27	30	29	30	21	180	163

3. 調査実施機関 出雲商工会議所、平田商工会議所、出雲商工会、斐川町商工会

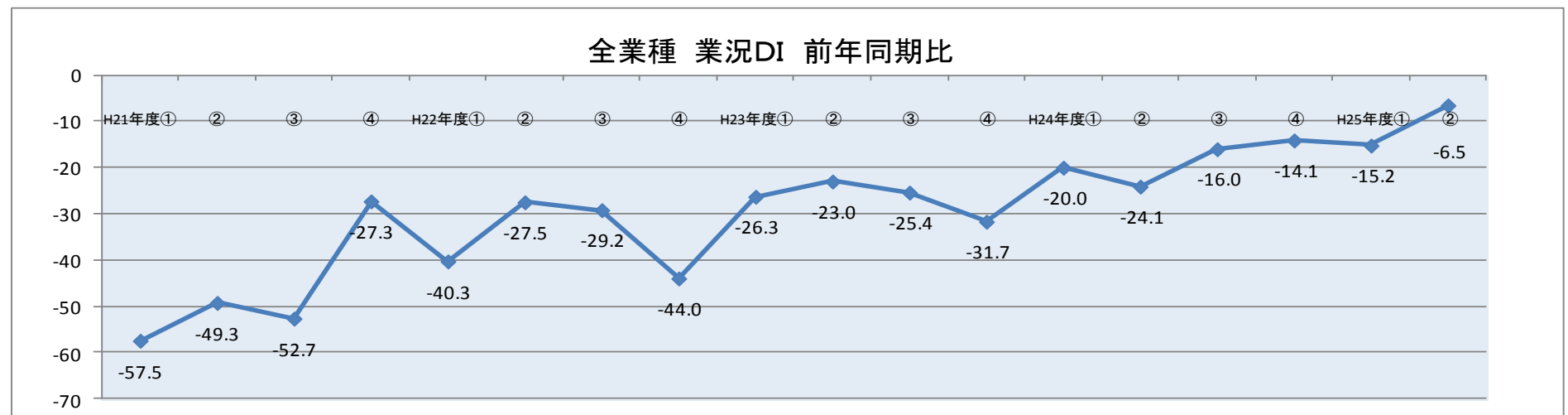
今 期（2013年7－9月）の 概 要

本調査は、出雲商工会議所が平田商工会議所、出雲商工会、斐川町商工会と共同で市内事業所から調査対象事業所180社を選定し実施しています。

概 況（前期調査＝2013年4－6月期）

○全業種の業況DIをみると、前期比では、小売業は振るわなかったものの、建設業と卸売業がプラス回復したことに加え、製造業も上向いたことにより、 $\Delta 8.2$ （前期調査 $\Delta 12.0$ ）と2期連続でマイナス幅が縮小しました。前年同期比では、5業種すべてが改善したことにより、 $\Delta 6.5$ （前期調査 $\Delta 15.2$ ）となり、21年度以降で最も業況が安定していることが見てとれます。来期見通しにおいても、今期比で全業種の改善が予測されたことを受け、 $\Delta 4.5$ （前期調査 $\Delta 13.9$ ）を示すなど、当市経済全体の回復に期待が高まっています。

帝国データバンクが毎月実施している全国景気動向調査によると、10月の景気DIは46.8となり、戦後最長の拡大期であった2006年5月（47.0）以来7年5カ月ぶりの水準で、過去7番目の高さとなっています。全国10地域中6地域（北海道、東北、北陸、中国、四国、九州）が過去最高を更新しました。中国地方は10地域中最大の改善幅。出雲大社大遷宮による観光客増で旅客運送が好調だったほか、自動車販売が動いたことで関連企業にも好調が広がりました。島根県内の10月景気DIを見ても、3カ月ぶりの大幅改善（前月比+4.9）となり、今年になって最高の水準である46.2となるなど全国平均とほとんど変わりはなく、景気DIの全国順位でも23位となっています。



- 出雲市内給水量状況について、25年度6～7月の契約件数は38,229件、8～9月は38,192件となり、前年同期比でそれぞれ増加しました。しかし、使用水量は6～7月1,823,736^m、8～9月は1,895,546^mとなり、前年同月比12,904^m、52,147^m減少しました。
- 電力使用量状況について、「特定規模需要以外の需要」の電灯・電力計は179,192千kWhとなり、前年同月比で4,487千kWhの減少、2期連続で節電が図られています。「特定需要規模」は業務用・産業用ともに増加し、合計で338,216千kWhとなりました。産業用の使用量が2期連続で大幅に増加していることが特徴的でした。今期の販売電力量合計は4,887千kWh増加の517,408千kWhとなりました。
- 出雲市人口動態について、自然要因では24カ月連続で死亡者数が出生者数を上回る傾向に変わりはありませんでした。しかし、社会要因では転入が転出を上回り、3カ月連続で増加しました。25年9月末時点の当市の人口は男性84,385人、女性90,453人の合計174,838人で、60,855世帯となっています。
- 雇用情勢（出雲公共職業安定所管内）について、7月～9月の求人倍率は1.08倍、1.16倍、1.12倍となり、前年同月比をすべて上回るとともに、すべて1倍を超えました。新規求人数は前年同月比で7月は18.1%の大幅増でしたが、8～9月は1.9%、13.7%ダウンしました。
- 島根県統計調査課のまとめた毎月勤労統計調査25年8月分速報（事業所規模5人以上）によると、現金給与総額は前年同月比0.8ポイントダウンの247,299円、2カ月ぶりの減少となりました。現金給与総額のうち、きまって支給する給与は前年同期比0.7ポイントアップの230,975円となり、2カ月連続の増加。所定内給与も0.3ポイントアップの215,019円となり、2カ月連続の増加となりました。総実労働時間は149.2時間で前年同月比0.1ポイントアップ、2カ月連続の増加となりました。所定内労働時間も、139.7時間で2カ月ぶりに減少しました。所定外労働時間は9.5時間で2カ月連続の増加となる4.4ポイントアップでした。一方、常用労働者数は前年同月比0.9ポイントダウンの228,844人となり、19カ月連続で減少し続けています。
- 企業倒産状況について、7～9月の出雲市の倒産は1件で、負債総額は96百万円。県全体では3件の倒産、193百万円の負債総額でした。今年度に入り、倒産状況は落ち着いた動きとなっています。
- 出雲市内信用保証状況について、7月～9月の月別保証承諾金額は前年比で7月：173.22%、8月：105.63%、9月：123.64%となり、10カ月連続の増加となりました。一方、保証債務残高はそれぞれ前年比93.09%、93.50%、93.48%となり、27カ月連続の前年割れとなっています。年度代弁累計はそれぞれ前年比88.57%、121.55%、69.89%となり、8月は5カ月ぶりに前年を上回りました。
- 出雲市内建築確認申請状況について、7月～9月の申請件数の合計は250件で前年同期比24件増加しました。消費税の駆け込み需要も見られることから、引き続き好調のようです。上半期の合計でも、39件増加の514件となりました。
- 県営公共事業の状況について、7月～9月の合計は1,875,450千円となり、前年同月比2,460,347千円のダウン。舗装工事が32

4, 208千円増加したものの、土木・建築・その他の3部門が減少。特に建築部門は1, 879, 730千円と大きく落ち込みました。上半期の合計でも、建築部門の1, 731, 905千円の大幅減が響き、1, 541, 485千円ダウンの3, 697, 117千円となりました。

業種別景況調査の主要DI (前期調査=2013年4-6月期)

1、建設業

- ・今期業況DIが、前期比では0.0(前期調査△34.8)と大幅に回復。前年同期比でも0.0(前期調査△13.0)のゼロ回復を示しました。
- ・売上DIは、前期比で0.0(前期調査△33.3)とマイナスから脱却した他、前年同期比でも4.5(前期調査△8.3)とプラス回復となりました。
- ・来期業況見通しDIは、今期比で△9.5(前期調査△13.0)、2期連続で上向くことが予測されています。「10月より工事受注が増加。今後、消費税8%に上がる前の改修工事・新築工事の受注に期待している」という声を反映するかのよう、来期売上見通しDIも4.5(前期調査0.0)と、さらなる改善が見込まれています。

2、製造業

- ・今期業況DIは、前期比が△3.0(前期調査△17.6)とマイナス幅が縮小するとともに、前年同期比でも△12.1(前期調査△26.5)となり、いずれも2期連続の改善が見られました。
- ・売上DIは、前期比が8.8(前期調査0.0)とプラス回復を示し、前年同期比も△2.9(前期調査△14.7)とマイナス幅がさらに縮小するなど、業況DIと同様、2期連続での回復となりました。「自動車ハイブリッド車関連が好調」「新商品の売上が好調」「消費税率の引き上げで駆け込み需要の傾向が見られる」など、明るい声が上がりました。しかし、「原材料の値上げ、また入手難がある。利益率は下がり、代金回収の悪化となる」と冷静に分析している企業もありました。
- ・来期業況見通しDIは、今期比で5.9(前期調査△2.9)を示すなど一層の回復が期待されています。来期売上見通しDIでは、20.6(前期調査5.9)と3期連続となる大幅な改善が見込まれています。

3、卸売業

- ・今期業況DIは、前期比では6.3(前期調査△12.5)と2期連続で回復し、黒字化。前年同期比でも同様に6.3(前期調査0.0)と2期連続の改善となりました。
- ・売上DIは、前期比で0.0(前期調査△12.5)と2期連続の回復によりゼロ水準となりました。しかし、前年同期比では△25.0(前期調査△18.8)とマイナス幅が悪化しました。「消費税増税を見越して、大きな買い物(家、車)をするので、化粧品などは買い控えが出た」「仕入価格の上

昇、経費の増加によって収益の悪化」など厳しい声も上がっています。

- ・来期業況見通し DI は、今期比で 6.7 (前期調査 6.3) と 4 期連続の上向きとなる見通し。同様に、来期売上見通し DI も、25.0 (前期調査 6.7) と大幅な伸びを見せており、来期への期待の大きさがうかがえます。

4、小 売 業

- ・今期業況 DI は、前期比で△23.3 (前期調査△20.5) とわずかにマイナス幅が拡大しました。「有名メーカーでも売れない。価格帯が全体的に下がった分、売上が伸びない。必要以外のものを買わない」「過去最悪のマージン状況」など厳しい状況を指摘する意見もありました。前年同期比では△18.6 (前期調査△30.2) と、マイナス幅がほぼ半減しました。
- ・売上 DI は、前期比で△16.3 (前期調査△23.9) とマイナス幅が 3 期ぶりに縮小。前年同期比でも△14.0 (前期調査△17.4) と今期もわずかに改善を示しました。大型店では、「高額品 (美術、宝飾、高級バックなど) が前期に引き続き好調」だったようです。
- ・来期業況見通し DI は、今期比で△16.7 (前期調査△27.3) と若干上向き見通し。売上見通し DI においても、△11.9 (前期調査△30.4) とやや持ち直すことが見込まれています。

5、サービス業

- ・今期業況 DI は、前期比で△6.8 (前期調査 10.2) とわずかにマイナスとなりましたが、前年同期比では 2.4 (前期調査 0.0) と微増を示しました。
- ・売上 DI は、前期比で△8.7 (前期調査 17.6) と、再びマイナスへ転落。「原材料の上昇で売価の据え置きが苦しい」「商圈内の高齢化・人口減少により、売上の減少は否めない状況」など苦慮する声もありました。前年同期比は 6.7 (前期調査△2.0) とプラス回復しています。大遷宮効果が宿泊・飲食関係を中心に続いているようです。
- ・来期業況見通し DI では、今期比で△2.4 (前期調査△16.3) とマイナス幅が縮小しました。来期売上見通し DI も今期比で 0.0 (前期調査△23.5) と状況が緩和する見通し。「来年、消費税アップになると、どんな様子になるか心配」と懸念する声もあります。

設備投資動向

1、今期設備投資

全業種 設備投資を実施した事業所の割合は 28.3% (前回調査 37.1%) と 8.8 ポイントダウン。内訳としては、「車両運搬具」への投

資が28.6%となり、3期連続で最も高い割合を占めました。

建設業 実施割合が37.5%で、「車両運搬具」の割合が最も高くなっています。

製造業 実施割合が29.7%で、「機械・備品」の割合が最も高くなっています。

卸売業 実施割合が11.8%で、「車両運搬具」「その他」が同率で並んでいます。

小売業 実施割合が25.0%で、「車両運搬具」の割合が最も高くなっています。

サービス業 実施割合が31.9%で、「付帯施設」の割合が最も高くなっています。

2、来期設備投資

全業種 設備投資を計画している事業所の割合は30.4%（前期調査 39.4%）で9ポイントダウン。内訳としては、「機械・備品」への投資が26.9%となり、2期連続で最も高い割合を占めました。

建設業 設備投資を計画している割合が25.0%で、「機械・備品」「車両運搬具」が同率で並んでいます。

製造業 設備投資を計画している割合は35.1%で、「機械・備品」の割合が最も高くなっています。

卸売業 設備投資を計画している割合が44.4%で、「車両運搬具」の割合が最も高くなっています。

小売業 設備投資を計画している割合が30.4%で、「機械・備品」の割合が最も高くなっています。

サービス業 設備投資を計画している割合が23.9%で、「建物」「車両運搬具」「OA機器」が同率で並んでいます。

経営上の問題点

- 全業種 第1位は「需要の停滞、受注減少」で38.5%。第2位は「単価の低下・上昇難」、第3位は「店舗・機械・備品等設備の老朽化」。前期と変わりはありませんでした。
- 建設業 第1位が「需要の停滞、受注減少」で、52.2%となっています。第2位には「人件費の増加」が入りました。
- 製造業 第1位が「需要の停滞、受注減少」で、33.3%となっています。第2位は「材料（原材料）等仕入価格の上昇」でした。
- 卸売業 第1位が「需要の停滞、受注減少」で、41.2%となっています。第3位には「代金回収の悪化」が入りました。
- 小売業 第1位が「需要の停滞、受注減少」で、40.5%となっています。第2位は「新規参入業者の増加」で、競争が激しくなっているとの結果が出ました。
- サービス業 第1位が「需要の停滞、受注減少」で、31.7%となっています。

注：DI（業況判断指数）とは、ディフュージョン・インデックス(Diffusion Index)の略で、「増加」・「好転」したなどとする企業割合から、「減少」・「悪化」などとする企業割合を差し引いた値です。

詳細は業種別景況を参照してください。